

平成26年度

文京区アカデミー推進計画
進捗状況評価

平成27年7月

文京区アカデミー推進協議会

I 生涯学習

- 1 いつでも、どこでも、だれでも学習や活動ができる機会の提供・充実・・・ 1
- 2 一人ひとりの学習や活動を支えるための情報提供、相談体制の整備・充実・・・ 2
- 3 区民・団体の主体的な活動の支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

II スポーツ

- 1 スポーツのきっかけづくり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- 2 スポーツを楽しむ環境づくり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- 3 スポーツ観戦の魅力向上・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- 4 スポーツ指導者の育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

III 文化芸術

- 1 だれもが文化芸術に親しむことのできる機会の充実・・・・・・・・・・・・ 8
- 2 文化芸術活動を豊かにするための情報提供、相談体制の整備・充実・・・ 9
- 3 「文の京」の文化や歴史を未来に伝える仕組みづくり・・・・・・・・・・・・ 10

IV 観光

- 1 まちあるきを中心とした資源の発掘・活用・創出・・・・・・・・・・・・ 11
- 2 まちあるきや交流のための環境づくり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
- 3 観光まちづくりのための情報発信・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
- 4 観光まちづくりのための人材育成と体制づくり・・・・・・・・・・・・ 14

V 国際交流

- 1 国際理解を進める機会づくり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
- 2 国際交流を進める機会づくり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
- 3 外国人が快適に暮らせる環境づくり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

平成27年度 アカデミー推進計画進行管理表（平成26年度実績）

政策・施策 【基本構想上の位置付け】		大項目	コミュニティ・産業・文化	中項目	生涯学習
アカデミー推進 計画における分野	1	生涯学習			
分野別の目標	1	いつでも、どこでも、だれでも学習や活動ができる機会の提供・充実			
1 現状と課題					
① 区民一人ひとりのニーズに対応できる学習機会を提供・充実させることが求められています。 ② 学習や活動のための場所の確保や充実に努めることが求められています。 ③ だれもが学習や活動ができるような配慮や仕組みづくりを進めることが求められています。 ④ 学習の場所として図書館の機能を充実させることが求められています。					
2 基本的な方向・取組状況					取組状況結果資料ページ
(1) 多様な講座や学習機会の提供・充実					1~2
(2) 学習や活動ができる環境の提供					2~3
(3) だれもが学習・活動しやすい仕組みづくり					3
(4) さまざまな学習活動を支援する区立図書館づくり					3~4
3 評価対象事業					
事業名	事業の概要				
①大学連携の推進	区内大学地域連携担当者会議及び区内大学学長懇談会を引き続き実施していきます。また、大学連携検討会及び区内大学連絡会を設け、連携を進める場を整えます。				
②生涯学習一日体験フェア	文京アカデミア講座の企画協力団体等が一堂に集い、講座の内容紹介、学習相談、学習情報の提供及びサークル活動の成果発表の場となる生涯学習一日体験フェアを実施します。				
③大学・企業等との協働の推進	大学の学習環境や高度かつ専門的な知的財産を活用するため、大学施設を使った大学キャンパス講座、大学学長の講演会（大学プロフェッスors特別公開講座）を実施します。また、企業や団体の社会貢献事業を積極的に誘致し、メセナ講座を実施します。				
④文京アカデミア講座	地域、文学、歴史・社会、芸術、くらし、語学、健康・スポーツなど、多様な分野について学ぶことができるよう、バラエティに富んだ「文京アカデミア講座（生涯学習講座）」を実施します。また、時間や場所を問わずに、パソコンから講座等の受講ができる「eラーニング講座」を配信します。				
⑤インターネット施設予約システムの更新	施設利用者に対して更に利便性・操作性に優れたサービスを提供するとともに、システムの処理機能を見直すことで施設管理者の事務処理の一層の効率化を図ります。				
⑥アカデミー向丘の整備	旧六中跡地に建設される複合施設の一部として、生涯学習施設アカデミー向丘を整備し、区民の学習・文化活動の場の充実を図ります。				
4 分野別評価					
参考：24年度評価 ・多様な内容の講座を実施している点について評価できる。今後は、講座の実施時間帯等を適時見直し、より多くの人々が参加できるよう検討されたい。 ・大学連携については、大学と区がある程度裁量を持って事業を実施できるような制度の整備が課題である。また、学生や研究者のもつ知的資源の効果的な活用や大学担当部署への積極的な働きかけを行い、相互にとって持続可能な連携事業のあり方を検討されたい。 ・アンケート結果や意見をできる限り反映し、事業現場でPDCAサイクルが実現できるよう努められたい。					
参考：平成25年度評価 ・個々の講座については、比較的満足度も高くチラシ類も質が良く評価できるが、内容が多岐に渡るため、推進計画の分野別の目標や課題に沿った方針を持って企画するよう努められたい。 ・大変バラエティに富んだ講座を行っているが、社会的に意義がある、地味でも掘り下げた講座も大切であり、回数よりも、内容の良いものに力を入れる点を検討されたい。 ・区の人口の年齢構成と講座が狙っている年齢層に乖離があるので、参加者の多い年代向けの企画の充実や、世代ごとにポイントを絞る等の工夫も検討されたい。					
平成26年度評価 ・文京アカデミア、大学連携などを中心に、多様な講座を提供していることは評価できる。今後は、子育て世代、障がい者、外国人など特定の条件を有する人々に対するきめ細かい配慮をもう少し充実させる必要があると思われる。一方で、講座数を増やすには限界がある。量より質を上げていく、eラーニングを増やすなどの工夫が求められる。 ・大学連携による講座の中には、一般の方への分かり易さをもう少し意識したほうがよいと思われる講座もあるため、各大学に趣旨を徹底されたい。 ・各種事業の中に、区民企画や区民講師など、区民が提供側に回る機会を増やすことが求められる。 ・施設予約ネットで予約できる施設をより充実されたい。					

平成27年度 アカデミー推進計画進行管理表（平成26年度実績）

政策・施策 【基本構想上の位置付け】	大項目	コミュニティ・産業・文化	中項目	生涯学習
アカデミー推進 計画における分野	1	生涯学習		
分野別の目標	2	一人ひとりの学習や活動を支えるための情報提供、相談体制の整備・充実		
1 現状と課題				
① 区民のさまざまな学習や活動のニーズを満たすことのできる情報の収集・整理が求められています。 ② 収集した情報を分かりやすく、入手しやすい方法で提供することが求められています。 ③ 区民が気軽に相談できる機会と場が求められています。 ④ 情報提供において、各地域にある図書館が拠点となることが求められています。				
2 基本的な方向・取組状況				取組状況結果資料ページ
(1) 学習情報の収集・整理				4
(2) 分かりやすい情報提供				4
(3) 相談体制の整備・充実				5
(4) 地域における情報拠点となる区立図書館づくり				5
3 評価対象事業				
事業名	事業の概要			
①生涯学習情報の一元化及び相談拠点の整備	区ホームページと指定管理者、大学等と関連情報の相互リンク等を推進し、情報のネットワーク化を図るとともに、相談拠点を設けます。 また、情報紙の発行に対する補助や、ホームページ、パンフレットによる情報提供を行います。			
②図書館におけるICTサービスの拡大	平成27年度の図書館システムのリース期間終了に伴い、スマートフォンやタブレットなどの新しい端末やユーザインターフェース（※）に対応した利便性の高いシステムを導入し、利用者サービスの向上を図る。 （※）：キーボードやマウス、ディスプレイなど、人間と機械（コンピュータ）の間を結ぶ役割を果たす部分や機能のこと。			
③文京区立図書館のサービス向上	文京区立図書館サービス向上検討委員会の検討を踏まえ、区民ニーズに沿った中央館・地区館の機能を充実させることにより、サービスの向上を図る。			
4 分野別評価				
参考：24年度評価 ・広報誌スクエアについては、デザインや色味に工夫が見られ、視覚的に非常に分かりやすい。今後とも魅力的な紙面づくりに努められたい。 ・生涯学習情報を俯瞰的に捉えることができる情報発信づくりを強く要望する。また、既存の情報発信媒体を効果的にリンクさせることで、情報の一元化を図られたい。 ・積極的な情報発信を行い、講座等への潜在的なニーズを持った区民にも情報が行き届くよう工夫されたい。 ・生涯学習の相談面は事業として弱い。生涯学習に精通した人材を積極的に活用し、窓口での人的な対応を充実されたい。 ・図書館のICタグについては、費用対効果などの課題事項について今後とも検討されたい。				
参考：平成25年度評価 ・図書館事業について、現状の取組は大変評価できるが、サイレントマジョリティ（声なき多数派）を大切に、区民ニーズの聞こえない声を汲み取っていくことに努められたい。 ・アンケートの取り方については、参加者数や講座の良し悪しの評価だけでなく、幅広い内容の設問も検討されたい。 ・講座にバラエティを持たせるのも大切だが、人気のあるものを繰り返す配慮や参加していない人へのアプローチについても検討されたい。				
平成26年度評価 ・区の各部署が提供する講座を含め、文京区全体の学習機会の体系が見えない。タテ割りを排して横並びで講座全体を把握し、重複講座を避けるとともに、区全体で文京カレッジのような枠組みで体系化を図ることが期待される。 ・図書館のサービスについては、システムの充実を含め、より一層の向上に努められたい。とくに、アカデミア講座や区の大規模なイベントに関する書籍を紹介するなど、学習活動と連動してテーマ性をもった図書情報の発信をさらに強めるべきである。 ・自主学習グループの紹介をもっと積極的に行い、主体的な学習活動への参加者を増やすとともに、それらの活動のネットワークを活性化させる必要がある（3との関係あり）。 ・ゆかりの文人などについては、テーマを決めて連携を意識した事業に取り組まれたい。				

平成27年度 アカデミー推進計画進行管理表（平成26年度実績）

政策・施策 【基本構想上の位置付け】	大項目	コミュニティ・産業・文化	中項目	生涯学習
-----------------------	-----	--------------	-----	------

アカデミー推進 計画における分野	1 生涯学習
---------------------	--------

分野別の目標	3 区民・団体の主体的な活動の支援
--------	-------------------

1 現状と課題

① 区民の主体的な学習や活動を支えるための仕組みづくりが求められています。
 ② 生涯学習活動をより活性化させるため、学習や活動の成果を披露する場の充実が求められています。
 ③ 生涯学習司や地域文化インタープリターなど、区独自の資格制度による人材の育成と活用が求められています。
 ④ 地域に存在する学習・活動経験者の知識等を区民又は学習する人に還元できるよう、人材活用の推進が求められています。

2 基本的な方向・取組状況

基本的な方向・取組状況	取組状況結果資料ページ
(1) 主体的な活動を支える仕組みづくり	6
(2) 活動成果披露の場の充実	6
(3) 人材育成の推進	6～7
(4) 人材活用の推進	7

3 評価対象事業

事業名	事業の概要
①生涯学習一日体験フェア	文京アカデミア講座の企画協力団体等が一堂に集い、講座の内容紹介、学習相談、学習情報の提供及びサークル活動の成果発表の場となる生涯学習一日体験フェアを実施します。
②生涯学習支援者の育成及び活動機会の提供	地域の生涯学習のリーダーとなる「文の京生涯学習司」、地域文化事業に貢献する「文の京地域文化インタープリター」、アカデミア講座の運営を支援する「文京アカデミアサポーター」など、生涯学習支援者の育成やスキルアップを図るとともに、活動機会の提供・充実を図ります。
③文京アカデミア講座	地域、文学、歴史・社会、芸術、くらし、語学、健康・スポーツなどバラエティに富んだ内容の講座を提供するとともに、大学等各種提案主体の特長を活かし、受講者の満足を得られる講座を提供します。また、資格取得キャリアアップ講座やeラーニング講座など、多彩なメニューを提供します。

4 分野別評価

参考：24年度評価
 ・一定の知識を習得した人材（生涯学習司）を相談窓口配置する等、その経験や知識が区民に還元される工夫が必要である。
 ・生涯学習に限らず、各事業分野において地域の担い手の後継不足が課題となっている。人材育成・活用がこれからも継続して実施していけるよう研究されたい。

参考：平成25年度評価
 ・新しい企画も必要だが、区の講座を通じてコミュニティが形成されるという特徴を生かしたり、受講生の自発的に出てくる意見を大切にすることも検討されたい。
 ・また一方で、受講者の幅を広げたり、受講者が固定化し新規の方が入りづらくなる点への配慮が必要である。
 ・オリンピック・パラリンピックを見据え、語学ボランティアや地域を紹介出来る人材の育成等、長期的視野に立った事業を検討されたい。
 ・様々な分野で他区と協働する企画も研究されたい。

平成26年度評価
 ・交流型の展示は、お互いの勉強になり、文化レベルが高まるので評価できる。より充実されたい。
 ・講座を受けた方が学んだ成果を多様な分野で生かせるよう、その受け皿としての環境・福祉・まちづくりなどのボランティア活動へ橋渡しをする仕組みを検討されたい。それを通じて、テーマ型コミュニティや地域文化の創造につながることを期待したい。
 ・生涯学習をもっと多様に活用するために、例えば、講座終了後にサークルに移行する可能性がある団体には、学習司を派遣するなどのシステムづくりを検討されたい。
 ・生涯学習一日体験フェアは、サークル活動の参加者を募集する機会として有効であるため、さらに多くのサークルが利用できる工夫が求められる。

平成27年度 アカデミー推進計画進行管理表（平成26年度実績）

政策・施策 【基本構想上の位置付け】	大項目	コミュニティ・産業・文化	中項目	スポーツ振興
アカデミー推進 計画における分野	2	スポーツ		
分野別の目標	1	スポーツのきっかけづくり		
1 現状と課題				
<p>① 区内の各種スポーツ機会や施設等の情報を分かりやすく提供するとともに、スポーツに関わるさまざまな相談・問い合わせ等に対応することが求められています。</p> <p>② 区民の多様なライフスタイルを踏まえて、日頃スポーツをしていない人がスポーツをはじめのきっかけとなるような情報の発信や手軽にスポーツに親しめる機会を充実させることが求められています。</p>				
2 基本的な方向・事業実績				取組状況結果資料ページ
(1) スポーツに関する情報の発信と相談体制の整備				8
(2) スポーツへ参加する機会の提供				8
3 評価対象事業				
事業名		事業の概要		
2020年東京オリンピック・パラリンピックの推進		2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会が決定したことから、区民のスポーツへの関心がより高まっています。こうした状況を踏まえ、2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けた準備等を行う庁内組織を設置し、気運醸成事業を推進するとともに、様々な整備を進めていきます。		
4 分野別評価				
<p>参考：24年度評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ関連の情報収集・整理が現状の課題となっている。誰もが必要な時に、必要な情報を手にできるような環境づくりが求められている。 ・障害者スポーツについて、現状として明確な方向性が示せていない。関係各課や、他の関係団体と連携を取り、機会提供をさらに支援していく必要がある。 ・文京区では、区民にスポーツに参画してもらうことや、スポーツを楽しんでもらうことに重きを置いている半面で、「より健康的に暮らす」といった健康・医学の視点に欠けているのではないかと。健康・医学に関して言えば、生涯教育分野とのさらなる連携が必要ではないかと。 				
<p>参考：平成25年度評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰でも、手軽に、簡単に体を動かすことのできる、ニュースポーツが充実していることは評価できる。 ・ニュースポーツの位置づけや理念をしっかりと持つことが、区のスポーツ事業の強みにつながるのではないかと。例えば、「パラリンピック種目(ボッチャなど)に特化して、パラリンピアンを輩出する」というようなコンセプトも今後の可能性として示していけるのではないかと。 ・施設のバリアフリー化が進む中で、スポーツ分野の事業においても、障害のある人もそうでない人も一緒になってスポーツに取り組める環境を実現できるとよい。 <p>※ニュースポーツ：競技性を重視せず、誰でも参加できることを目的としたスポーツの総称。 (例：ドッチビー、キンボール、ボッチャ等)</p>				
<p>平成26年度評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツを実施するための事業については、多くの取り組みがされており、評価できる。 ・区内の施設が限定されており、これ以上多くの事業を実施することは難しくなってくるので、視点を変えて、スポーツ施設以外でも運動が実施できるような場所の提供や幅広い対象者に対する情報発信や機会の提供は、改善の余地があると思われる。 ・個人レベルで各々が活動場所を増やすというより、子ども、大人問わず「運動をする」という習慣を身に付けて、いろいろな場所で運動に取り組めるようになるとよい。 				

平成27年度 アカデミー推進計画進行管理表（平成26年度実績）

政策・施策 【基本構想上の位置付け】	大項目	コミュニティ・産業・文化	中項目	スポーツ振興
-----------------------	-----	--------------	-----	--------

アカデミー推進 計画における分野	2 スポーツ
---------------------	--------

分野別の目標	2 スポーツを楽しむ環境づくり
--------	-----------------

1 現状と課題

- ① 区立スポーツ施設の使いやすさをより一層高めるとともに、「スポーツ交流ひろば」のように身近な場所で気軽にスポーツが楽しめる場として、さらに区内のスポーツ資源の有効活用を図ることが求められています。
- ② 子ども、勤労者、妊婦、高齢者、障害者など、ライフステージや、ライフスタイル、体力等を踏まえて、健康づくりやスポーツを楽しむためのさまざまな支援や配慮、対象者のニーズに応えた、多様なプログラムを提供することが求められています。
- ③ スポーツを楽しむことに加え、技術レベルの向上等を目指す区民のために、競技力の向上を支える仕組みづくりが求められています。
- ④ 既存のスポーツ団体の活動を活性化するために、関係団体との連携強化を図ることが求められています。

2 基本的な方向・事業実績

基本的な方向・事業実績	取組状況結果資料ページ
(1) スポーツ施設の整備・充実	9
(2) 既存施設等の利活用	9
(3) 多様なニーズに対応するプログラムの提供	9～11
(4) スポーツを通じた地域交流の活性化	11

3 評価対象事業

事業名	事業の概要
スポーツ交流ひろば（スポーツ開放） の運営委員会化の推進	新しい競技の実施や事業の運営内容の見直しを行い、区民の誰もが、いつでも気軽に参加できる環境づくりを進めていきます。 区、指導員（運営委員会）と学校の三者間の連携を強化する中で、実技指導の内容充実や利用者の安全確保に努めるなど、必要な体制づくりを整えていきます。
スポーツセンターの改修	時間の経過により老朽化の進行した施設の改修、耐用年数を過ぎた設備の更新と合わせて、施設全体のバリアフリー化、地球温暖化対策や省エネルギー対策等へ対応した施設とするため、全面的なリニューアル（改修）工事を実施します。なお、改修にあたっては、平成26年度中にその概要を整理し、平成27年度から3年程度の期間をかけて行います。

4 分野別評価

参考：24年度評価

- ・区のスポーツ施設の稼働率が高いため、現状として、区の事業や指定管理者の自主事業といった、新しい事業展開が困難である。
- ・学校施設の有効活用という点で、教育委員会や学校施設との連携が不足しているのではないかと。実際に運営を行う側と学校側とのコミュニケーションが十分に取れていない面がある。
- ・年代によってライフスタイル・ライフステージが異なるため、それぞれにあった幅広いプログラムを提供する必要がある。
- ・現在のスポーツ事情について、ソフト面と比較し、ハード面の整備がより一層求められていると考えられるが、そのような中で新しい体育館の開館が行われたことは評価できる。

参考：平成25年度評価

- ・区内の屋内運動施設が充実していることについて評価できる。
- ・都心部にあるため、限られた用途でしかスポーツ施設の利用ができず、事業も広く浅くという形になってしまう。より一層メリハリのある事業展開をされたい。
- ・学校施設の開放について、学校教育に支障のない範囲での貸し出しとなることから、学校側の観点に立った開放となってしまう。「学校施設を地域に積極的に開放する」と、昭和51年6月に出版された文部省の通達について、教育委員会・学校側が理解し、継承していくことが必要ではないか。
- ・スポーツ交流ひろばについて、学校を通じた連絡（開催について、落し物・忘れ物について等）が困難である。教育委員会・学校・指導員・所管課（スポーツ振興課）の連携をより一層深めていくべき。

平成26年度評価

- ・分野別目標①にも関連しているが、区内のスポーツ施設の稼働率は高く、評価できる。
- ・その一方で、区内の施設の利用が飽和している点もあり、また、新たな施設を造るのは困難であるため、今後は、近隣の施設等の活用も視野に入れる必要性が考えられる。
- ・昨年からの課題であるが、学校の施設開放については、学校側、保護者、スポーツ指導者の連携が必須であり、引き続き、活用方法を検討することが望まれる。

平成27年度 アカデミー推進計画進行管理表（平成26年度実績）

政策・施策 【基本構想上の位置付け】	大項目	コミュニティ・産業・文化	中項目	スポーツ振興
アカデミー推進 計画における分野	2	スポーツ		
分野別の目標	3	スポーツ観戦の魅力向上		
1 現状と課題				
<p>① 貴重なスポーツ資源であるプロスポーツ等団体や施設などが、「スポーツ観戦」という観点から相互に連携・協力して、区内におけるスポーツ振興を図ることが求められています。</p> <p>② プロスポーツ等団体をはじめ、学校や地域のクラブチームなどの試合観戦や地元チームの応援、練習風景の見学などができるような仕組みや機会づくりが求められています。</p>				
2 基本的な方向・事業実績				取組状況結果資料ページ
(1) プロスポーツ等団体との連携・協力				12
(2) スポーツ観戦機会の拡充				12
3 評価対象事業				
事業名	事業の概要			
スポーツ団体等協働事業	区内に拠点を置く日本サッカー協会や読売巨人軍等のスポーツ団体やスポーツ企業、大学等のスポーツ関係団体等と協働し、区民にスポーツの魅力を伝え、スポーツへの関心を高めるとともに多様なスポーツを行う機会を提供していきます。			
4 分野別評価				
<p>参考：24年度評価</p> <ul style="list-style-type: none"> サッカー協会や東京ドームなど、区内に存在する多くのスポーツ資源を活用し、スポーツ振興事業を展開できている点について、評価できる。 今後も継続して、各団体や大学、プロスポーツ団体との連携を図り、より一層協働を進めていく必要がある。 				
<p>参考：平成25年度評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 区内の地域スポーツクラブの地域派遣を実施し、研修や助成金制度等についても積極的な情報提供を行っている。今後も引き続き、スポーツ団体との連携を図り、より一層の協働を進められたい。 				
<p>平成26年度評価</p> <ul style="list-style-type: none"> サッカーワールドカップのパブリックビューイングでは、SNSやホームページ、民間が運営するウェブサイトへのアプローチ等を活用して、子どもから大人まで多くの住民が参加して、応援できた点は大変評価できる。 文京区は、様々な競技団体が存在するので、これらの組織と更なる連携を進められたい。情報の一元化が求められる一方で、若い世代はSNS、年配の方は区報のような紙媒体と、世代ごとに効果の高いメディアを使い分ける広報の活用を期待する。 				

平成27年度 アカデミー推進計画進行管理表（平成26年度実績）

政策・施策 【基本構想上の位置付け】	大項目	コミュニティ・産業・文化	中項目	スポーツ振興
アカデミー推進 計画における分野	2	スポーツ		
分野別の目標	4	スポーツ指導者の育成		
1 現状と課題				
<p>① 若手スポーツ指導者の育成や地域におけるスポーツの人的資源の活用を図り、さまざまな種目において多くの指導者を確保することが求められています。</p> <p>② スポーツ人口の底辺を拡大するために、行政と関係スポーツ団体等との連携・協力体制を構築し、技術の向上だけでなくスポーツを通じて人間性を高めるなど、より一層、指導力を強化することが求められています。</p>				
2 基本的な方向・事業実績				取組状況結果資料ページ
(1) スポーツ指導者等の育成と確保				12
(2) スポーツ指導者の技術等の強化				13
3 評価対象事業				
事業名	事業の概要			
スポーツ交流ひろば（スポーツ開放）の運営委員会化の推進	新しい競技の実施や事業の運営内容の見直しを行い、区民の誰もが、いつでも気軽に参加できる環境づくりを進めていきます。 区、指導員（運営委員会）と学校の三者間の連携を強化する中で、実技指導の内容充実や利用者の安全確保に努めるなど、必要な体制づくりを整えていきます。			
スポーツ指導者の育成と活用	スポーツ指導者の資質向上のため、専門技術・メンタルトレーニング・指導方法・安全管理等の講習会を開催します。 スポーツ団体等に実技指導員（スポーツ推進委員またはスポーツリーダー）を派遣します。			
4 分野別評価				
<p>参考：24年度評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ交流ひろばをはじめ、指導者側の高齢化が顕著であり、指導を行う担い手が不足しているため、現スポーツ指導者ら（スポーツ推進委員等）の負担が大きいことが課題となっている。 ・今後は、スポーツ指導員の役割や制度について、区民に対してより一層周知していく必要がある。 ・指導者には、実技のみならず、地域との連絡調整能力やマネジメント能力が求められているため、さらなる指導力の向上や、指導者の活性化が必要である。 				
<p>参考：平成25年度評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各施設の指定管理者側の職員スタッフ数が限られている。そのため、障害者スポーツの介助者や指導員などといったボランティア制度を検討する必要がある。 ・スポーツ交流ひろば（スポーツ開放）の歴史は他の自治体と比較して長く、事業内容も充実している。 ・スポーツ指導員対象の研修について、障害者スポーツなど、普段経験できないようなものについても内容が充実している点は評価できる。 				
<p>平成26年度評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ推進委員の研修制度や委員の高齢化等が全国的に課題となっており、また、障害者スポーツ指導員についても高度な専門性が問われているため、それらを担保していく難しさはあるが、引続き研究されたい。 ・昨年度の課題であったボランティア制度の確立やスポーツ推進員の協力による小中学校の親子交流会の実施が広がっている点は評価できる。 ・今後は、運動指導だけでなく、コミュニティづくりなどの視点を備えた指導員を育成していただきたい。 				

平成27年度 アカデミー推進計画進行管理表（平成26年度実績）

政策・施策 【基本構想上の位置付け】	大項目	コミュニティ・産業・文化	中項目	文化振興
-----------------------	-----	--------------	-----	------

アカデミー推進 計画における分野	3 文化芸術
分野別の目標	1 だれもが文化芸術に親しむことのできる機会の充実

1 現状と課題

- ① 鑑賞する機会を充実させることが、文化芸術の振興において重要な鍵となります。
- ② 文化芸術活動を楽しむ区民のさまざまなニーズに対応するために、参加の機会を増やすことが求められています。
- ③ 区内にあるさまざまな歴史的資源にふれるなど、地域の伝統や歴史に親しむ機会を増加させることが求められています。
- ④ さまざまな状況にある人が、文化芸術活動に親しめるようにしていくことが求められています。

2 基本的な方向・取組状況

基本的な方向・取組状況	取組状況結果資料ページ
(1) 鑑賞の機会と場所の提供・充実	14
(2) 参加・創造・成果披露の機会と場所の提供・充実	15
(3) 地域の伝統や歴史に親しむ機会と場所の提供・充実	16～20
(4) だれもが鑑賞・参加しやすい仕組みづくり	20

3 評価対象事業

事業名	事業の概要
①文の京ゆかりの文化人顕彰事業	顕彰の対象は、その年度が記念の年（生誕、没後等）にあたる文化人を中心に行う。文化資源担当室においては、朗読コンテスト、歴史講座（講演会）、史跡めぐり等の事業を企画、開催する。また鷗外記念館のミニ展示、文化事業係における企画展、観光担当が行う施設整備等とも連携して顕彰事業を行う。
②アウトリーチ事業の実施	小・中学校や地域の文化施設など、身近な施設に演奏家等が出向き、ミニコンサートを開催します。また、コンサートの中で参加者が演奏に参加し、芸術文化に触れる機会を設けます。
③シビックホールでの文化芸術振興事業の実施	事業協定を結ぶ芸術団体による芸術鑑賞事業や区民参加型事業をシビックホールにおいて実施します。
④文化祭／各種発表会／若手芸術家支援	現在の文化育成事業を適宜見直ししながら、継続的に実施するとともに、若年層をターゲットとした企画から運営までも自らが実施するイベントの開催を目指します。
⑤協定締結都市等との文化交流事業	各自治体の文化や特色ある伝統芸能の紹介のほか、幅広い交流により、自治体間における市民レベルの文化的交流の活性化と、パートナーシップの領域を拡大します。

4 分野別評価

参考：24年度評価

- ・シビックホール等の文化資源や著名オーケストラとの事業提携を活用した多様な文化振興事業が実施されている点について、大いに評価できる。
- ・事業ごとのアンケートを活用した原因分析を行い、今後の文化振興に努められたい。
- ・文化祭やミュージックフェスタをはじめとする芸術事業について、出展者数や来場者数等が減少傾向にあると言える。広報・周知活動、環境の整備等を工夫されたい。
- ・様々な分野が連携した相互横断的な事業を新たに実施することで、これまで関心が薄かった分野に対する個人の関心を引き出し、文化芸術事業への新規参加者を増やすことができるのではないか。

参考：平成25年度評価

- ・アウトリーチ事業のように、少人数でも地味な活動が大事であり、分野を超えて気軽に、草の根を分けるように音楽を活用していくことを期待する。
- ・文化祭等では、参加者が固定化しているため、若い世代の応募や参加を増やすためのより一層の工夫に努められたい。例えば、賞の出し方に、新しい機軸を持たせる等の工夫を行えば、参加者の広がりや意欲の高まりが出るのではないか。

平成26年度評価

- ・文化芸術に触れる機会を増やすという視点では、休館日の変更や障害者の方への対応等も含めた検討が必要である。
- ・キャンパスと言う意味では、大学との連携だけではなく、小中高といった縦の連携の仕組みづくりも検討されたい。

平成27年度 アカデミー推進計画進行管理表（平成26年度実績）

政策・施策 【基本構想上の位置付け】	大項目	コミュニティ・産業・文化	中項目	文化振興
アカデミー推進 計画における分野	3	文化芸術		
分野別の目標	2	文化芸術活動を豊かにするための情報提供、相談体制の整備・充実		
1 現状と課題				
<p>① 区民に役立つ幅広い情報を提供するため、本区の文化芸術活動に関わっているさまざまな機関が実施しているイベントや文化芸術に関する講座の情報を収集し、一元管理していくことが求められています。</p> <p>② 幅広い世代にとって分かりやすく、取得しやすい情報提供が求められています。</p> <p>③ 文化芸術活動に関連する区民のさまざまな疑問や悩みに対応できるよう、相談体制を充実していくことが求められています。</p>				
2 基本的な方向・取組状況				取組状況結果資料ページ
(1) 文化芸術関連の情報収集・整理				21
(2) 分かりやすい情報提供と幅広い情報発信				21
(3) 相談体制の整備・充実				21
3 評価対象事業				
事業名	事業の概要			指標達成度
該当なし				
4 分野別評価				
<p>参考：24年度評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広報誌スクエアについては、デザインや色味に工夫が見られ、視覚的に非常に分かりやすい。 ・ 個々の事業が充実していることは大いに評価できるが、それらを俯瞰的に参照できるような情報提供の仕方が望ましい。 ・ 文化芸術に関する情報提供体制・相談体制が非常に脆弱であると言える。各種関連団体や大学等と連携し、多彩なネットワーク構築に努められたい。 ・ 情報提供の一環として臨時の相談窓口を設けるなど、参加者の悩みや疑問についていつでも対応できるような相談体制の充実に努められたい。 				
<p>参考：平成25年度評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な発表の場が設定されていて、広報誌スクエアの評価も高いが、区民が全体の構成を俯瞰的に知る事が出来ないのでは、その点を工夫されたい。 ・ 区民の声を反映させたホームページ作りにより一層努められたい。 ・ 従来のホームページにある、ピラミッド型の情報の一元化は古いので、情報に必ず検索のための紐付けをして関連付けていくことを検討されたい。 				
<p>平成26年度評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広報誌スクエアは、情報が多く、一度にたくさんの情報が得られて評価できる。 ・ 情報が電子化されてしまうと、関心があるものにしか目を向けなくなってしまう危惧があるので、新聞やスクエアのようなアナログメディアは重要である。 ・ ホームページの作成は予算と人が重要であり、職員のほかに、学生を活用するなどの工夫が必要である。 				

平成27年度 アカデミー推進計画進行管理表（平成26年度実績）

政策・施策 【基本構想上の位置付け】	大項目	コミュニティ・産業・文化	中項目	文化振興
アカデミー推進 計画における分野	3	文化芸術		
分野別の目標	3	「文の京」の文化や歴史を未来に伝える仕組みづくり		
1 現状と課題				
<p>① 文化芸術活動を楽しむ人々を増やし、裾野を広げながら活性化していくことが求められています。</p> <p>② 文化芸術活動に携わっている人や団体を支援して、活動者の増加を促していくことが求められています。</p> <p>③ 本区の伝統や文化、その他文化芸術分野について教え、継承していくことのできる人材の育成が求められています。</p> <p>④ 育成した人材や地域に存在する人材を活用し、経験や知識を地域に還元していくことが求められています。</p> <p>⑤ 区内に存在するさまざまな歴史的・文化的な資源の発掘と保存を進めていくことが求められています。</p>				
2 基本的な方向・取組状況				取組状況結果資料ページ
(1) “楽しむ人”づくりの推進				21
(2) “活動する人・団体”への支援				22
(3) “伝える人”の育成と発掘の推進				22
(4) 人材活用の推進				22
(5) 文化的な資源の発掘と保存の推進				23
3 評価対象事業				
事業名	事業の概要			
①区制70周年記念事業「文京区史」の発行	平成29年度の文京区史の発行にむけて、編さん作業を進めていきます。本年度は、広く区民の理解と協力を求め、資料の提供を呼びかけます。また、区史編さんを推進するため、区民と行政との協働で協議を行うために文京区史編さん委員会を設置するとともに、全庁的な連携・協力体制の構築と、区民の方の協力により、事業を円滑に進めていきます。			
4 分野別評価				
<p>参考：24年度評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 映像資料の調査・保存事業については、事業開始から3年が経過し一定の成果を得られているが、区民等との協働や、より効果的かつ新しい周知方法を模索することによって、文化的な資源のさらなる掘り起しに努められたい。 歴史・文化的資源の発掘・保存に関して、個人に対する既存の周知方法に加えて、区内の大学・町会・各種連合会等を巻き込んだアプローチを行う必要がある。 				
<p>参考：平成25年度評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 伝統芸能を見せる講座のあり方が固定化している。本格的な舞台に立てる事は魅力だが、本来の開催趣旨を踏まえて見直しも必要である。 伝統的なものは繰り返すことに意味があり、長期継続の事業は止めるのが難しいが、仕組み自体を学生に考えてもらう等の参加型で、伝統を生かしつつ新しい事に結び付けていく工夫をされたい。 文化芸術はエンターテイメント的に面白くする必要はないが、芸術の面白さや伝統を取り入れながらリニューアルをして行くよう努められたい。 				
<p>平成26年度評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 歴史的な資源の発掘は重要である。また、文化財の活用を進める工夫に努められたい。 文化を楽しむ人が増える取組や、文化を区民に伝えるための技術を持った人や指導者を養成する取組を継続的に行うことが重要である。 				

平成27年度 アカデミー推進計画進行管理表（平成26年度実績）

政策・施策 【基本構想上の位置付け】	大項目	コミュニティ・産業・文化	中項目	観光
-----------------------	-----	--------------	-----	----

アカデミー推進 計画における分野	4 観光
分野別の目標	1 まちあるきを中心とした資源の発掘・活用・創出

1 現状と課題

- ① 既存の観光資源の周知拡大や発掘・創出とともに、その魅力の向上を図ることが求められています。
- ② 本区の資源の魅力をより高める観光コースづくりが求められています。
- ③ 本区の特長である大学等の教育機関と美術館・博物館などとの連携を強化していくことが求められています。
- ④ 歴史的・文化的な資源以外にも、本区ならではの「食べる」、「買う」、「体験する」、「交流する」などの魅力も高めていくことが求められています。

2 基本的な方向・事業実績

	取組状況結果資料ページ
(1) 文の京の誇りとなるまちなかの魅力発掘と磨き上げ	24
(2) 文の京を分かりやすく伝えるストーリー性ある観光コースづくり	24
(3) 「学び」の要素と連携した文の京ならではの新しい魅力づくり	24
(4) まちあるきを誘発する「文京ブランド」の構築	25

3 評価対象事業

事業名	事業の概要
観光ガイド事業の充実	区民を中心に観光ガイドを募集し、ガイド技術を十分に育成した後に、来訪者の依頼に応じて、区内観光スポット等を案内する事業を実施します。

4 分野別評価

参考：24年度評価

- ・ 区の代表行事である各種祭りの実施・助成などを通じて、観光客の誘致や従来の主だった資源のPRはなされていると言える。一方、区の隠れた及び新たな魅力を発掘する事業は不十分であり、文の京ならではの資源発掘という観点から、今後新たな事業の実施を検討されたい。
- ・ フィルムコミッション事業や文人銘菓事業等を通じた、新たな観光資源の発掘・活用は評価できる。スタンプラリーなど、区外の方も気軽に参加できるような取り組みがあるのは非常によい。
- ・ 区内最先端医療科学や大規模病院施設を活かしたメディカルツーリズムや、地域と大学間の相互交流の強化等を通じて、「知の拠点」としての区のイメージや、数多く存在する知的資源等のさらなる活用を図ることが望ましい。
- ・ まちあるき等は人気ある観光施策であり、文京区の事業も好ましい企画ではあるが、歴史・文化的な側面を持つ事業が多く、参加者の年齢層が中高年に集中している。今後は、文京観光分野において若者の集客につながるような若者の興味・関心をひく参加型企画が増えることを期待する。

平成25年度評価

- ・ 観光ガイド事業は、分かりやすくコースが設定されている点などを評価する。多言語対応の案内標識の増加も評価できる。
- ・ 区内に大学が多いという特性を活かし、学生の目線で参加型等のまちあるきの企画やガイドの試みを検討されたい。
- ・ 施設へのアクセスの観点から、交通機関の利用状況を調べる等、観光促進の為の基礎データ収集が重要である。区内はもとより、区外からの来訪者の利便性を考慮した対応を検討されたい。
- ・ 実験的に地方都市で文京区を紹介するブースを出店する等して、文京区が、他の地域でどう認識されているかを知ることが重要であり、それらを踏まえて情報発信に生かすことが望ましい。

平成26年度評価

- ・ 石川啄木にちなんだ事業、新江戸川公園にかかる事業という新規の事業への取り組みがあったことは評価できる。また、従来からの事業についても着実に継続された。
- ・ 他方で、新たな観光資源の発掘など一昨年、昨年からの課題については十分な取り組みがなかったことも指摘せざるを得ない。
- ・ Bーぐるを活用することで効率的に周遊することができる観光拠点も多いので、まちあるき施策への取り入れを検討されたい。
- ・ 空いた時間を利用して短い時間で観光できるようなコースづくりがあっても良い。地域の歴史・文化を詳しく知りたい方々のみではなく、区外在住者や若者にも関心をもたれるよう多角的な視点で多様な施策を検討することも必要である。

平成27年度 アカデミー推進計画進行管理表（平成26年度実績）

政策・施策 【基本構想上の位置付け】	大項目	コミュニティ・産業・文化	中項目	観光
アカデミー推進 計画における分野	4	観光		
分野別の目標	2	まちあるきや交流のための環境づくり		
1 現状と課題				
<p>① 来訪者を迎え入れるにあたり、安全・安心であること、バリアフリー化したやさしいまちであるとともに、緑や情緒あるまちなみなどの多様な景観の維持や保全が求められています。</p> <p>② 区内を横断的に移動できる手段やわかりやすい案内の提供などを進めていくことが求められています。</p> <p>③ 区民と区民、区民と来訪者の交流を促進し、本区の資源や暮らしの魅力をより身近に感じられるような機会づくりが求められますが、その際には観光資源の近くに住む区民の日常生活への配慮も求められています。</p> <p>④ まちあるきの人気が高いこと、まちあるきが地域を知る手段として有効なことから、テーマを持ったまちあるきや地域活性化のためのイベントなどを新たに創出していくことが求められています。</p> <p>⑤ 本区に多く立地する大学等と連携し、イベントや学会などの誘致を進めるとともに、参加者・同伴者が本区の魅力を堪能できる仕組みづくりが求められています。</p>				
2 基本的な方向・事業実績				取組状況結果資料ページ
(1) 安全・安心でやさしいまちを実現する環境づくりの推進				25
(2) 区内の回遊性を向上させる誘導の仕組みづくり				25
(3) 区民や来訪者の交流充実に向けた環境づくり				26
(4) 文の京の魅力を活かすイベントの推進				26
(5) MICEの誘致（アフターコンベンションの充実と誘致）				27
(6) 区民生活に配慮したまちあるきの仕組みづくり				27
3 評価対象事業				
事業名	事業の概要			
文京花の五大まつり等の支援	地域の町会・商店会等で組織する各実行委員会が行う「文京花の五大まつり」（さくら、つつじ、あじさい、菊、梅）及び「文京朝顔・ほおずき市」「根津・千駄木下町まつり」の宣伝・広告及び実施に要する経費の一部を助成することを通じて、地域の発展と活性化及び観光客の誘致を図ります。			
4 分野別評価				
<p>参考：24年度評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 文京区は文化資源を区内に多く持つことから、文化的な側面にとらえた観光施策に重きを置いており、その特色や方向性は評価できる。その一方で、産業振興との結びつきが他の自治体に比して弱い側面がある。 2020年の東京オリンピック開催決定を契機に、海外からの団体を誘致する視点として、区内の著名宿泊施設や大学等を活用したMICEについて具体的に取組まれた。 区内19大学との新たな連携事業や協力してのPR等、地域と大学の連携を進めていく中で、文京区の魅力の一つである、多くの歴史ある「教育機関」を新たな観光資源としてPRされたい。 				
<p>平成25年度評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 施策が固定化していて、継続しているものは昨年と同じ課題がある。生涯学習の部署に観光があるのは他にはない特徴のひとつであり、部局内の相乗効果を活用した発展に期待する。 文京区は産業としての観光への依存度が低く、観光施策において他の自治体より産業・経済面の視点が不十分であるが、連携の強化が必要である。 オリンピック・パラリンピックを踏まえ、観光と国際交流やスポーツとの関連を視野に入れた仕組みを検討されたい。 文京区には医療機関が多いという特徴を活かした、観光と医療を結ぶ外国人旅行者の誘致施策については、区としても研究を継続されたい。 				
<p>平成26年度評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 花の五大まつり、朝顔ほおずき市、下町まつりは、メディアでの露出も年々広がりを見せている。近年は外国人観光客も多くなっており、来場の増加が実感できる。 一部のイベントにおいて来場者が増加するなどの成果があったことは評価できる。また、従来からの事業についても着実に継続された。 生活に密接した観光資源における住環境との両立・共生という点で持続可能な仕組みの整備が望まれる。 旧伊勢屋質店の保存活動を評価する。壊してしまったら元には戻らないため、価値を適切に評価する必要がある。 				

平成27年度 アカデミー推進計画進行管理表（平成26年度実績）

政策・施策 【基本構想上の位置付け】	大項目	コミュニティ・産業・文化	中項目	観光
アカデミー推進 計画における分野	4	観光		
分野別の目標	3	観光まちづくりのための情報発信		

1 現状と課題

- ① 「文京区」のブランド力や知名度を高めるための効果的な情報発信を積極的に展開していくことが求められています。
- ② 来訪目的に応じた情報発信の充実を図るとともに、区民に対する積極的な情報発信が求められています。
- ③ メディアに対する情報発信を積極的に行うなど、テレビや新聞などに多く取り上げられるようにすることが求められています。
- ④ 情報提供サイト（ホームページ）を通じた情報発信の充実、携帯端末など新たな情報通信技術の活用など、情報発信の手段を多様化していくことが求められています。

2 基本的な方向・事業実績	取組状況結果資料ページ
(1) 「文京区」の知名度向上へ向けた情報発信の強化	28
(2) ターゲットを明確にした効果的な情報発信の推進	29
(3) メディアの有効活用による「文京区」の積極的なPR	29
(4) 情報通信技術を活用した情報発信の推進	29

3 評価対象事業

事業名	事業の概要
観光リーフレットの作成	区内観光施設及び名所・旧跡等観光資源を紹介する観光リーフレット及び食に関するリーフレットを、文京区観光協会に補助金を交付して作成し、本区の魅力を紹介するとともに、文京区観光インフォメーション、シビックセンター展望ラウンジ、東京都観光情報センター及び花の五大まつり等の会場等で配布し、観光客の誘致を図ります。
フィルムコミッションによる観光振興	ホームページやフェイスブック、ツイッターによる情報提供等により、映画、テレビドラマ、CM等の映像制作者を積極的に誘致し、ロケーション撮影支援を行うことを通じて、区の情報発信を行います。
観光インフォメーションの運営	まちあるきを行う来訪者に対して、旬の情報を迅速・適切に提供するため、観光インフォメーションを運営します。

4 分野別評価

- 参考：24年度評価
- ・どの駅の利用者が多いのか、どのくらいの人数の観光客が区を訪れているか等、観光ビジョン制定後の観光客に関するデータ分析が不十分である点については、今後の課題である。事業参加者のアンケート等を関連付けた各種データの分析を実施し、現状の把握をされたい。
 - ・区のホームページ等について、構成が複雑で内容も多岐に渡っている。まず、年度ごとに分析項目を決めるなどして、どのような情報が外部から多く見られているのかを把握することで、今後の観光情報の効果的な発信につなげていく必要がある。
 - ・外国人の方にホームページやブログ等を使って観光スポットを紹介してもらったり、留学生にメディアレポーターの体験をしてもらうなど、外部の視点や発想に着目して見ること、及び、区が自ら動くのではなく新たな活力と連携することで、文京区の観光施策の新たな方向、見せ方につながると考える。
- 参考：平成25年度評価
- ・観光ガイドおさんぽくんが都内で1位になったことを評価する。特定エリアの地図よりも網羅的で、情報が豊富な点が良かったと考える。
 - ・区の様々な地図は情報量が多く検索性に課題があるため、ロケ地、飲食など、目的別の表示方式を充実されたい。また、民間施設の情報掲載の拡充や、地図を常に最新の情報に保つための地域のネットワークづくりが必要になると考えられる。
 - ・オリンピック・パラリンピックに向けて、多言語対応の充実とともに障害者に優しいルートマップなども必要と考えられる。
 - ・携帯、タブレット端末に向けた情報発信が今後さらに重要となるが、技術革新や費用対効果等を見極めつつ取組むことが重要である。
- 平成26年度評価
- ・観光リーフレットを区内の主要なスポットで配布するのに加え、東京シティアイなど区外でも積極的に配布して情報発信しようとする新規事業は評価できる。
 - ・従来からの取り組みについて、フィルムコミッション事業をはじめ着実に継続している点も評価できる。
 - ・情報発信の内容や対象を把握する取り組みは十分といえず、来訪者のニーズや動線に合った情報戦略が求められる。
 - 例えば、観光客の動線を把握したうえで観光客がどのような経路で文京区を訪れるのか、入口を意識した効果的な情報発信を行う必要がある。特に、外国人観光客は区境を意識しないので、広域の施策を検討されたい。
 - ・全ての施策に一律で取り組むのではなく、区の体制や方針を踏まえた強弱をつけた対応も必要である。

平成27年度 アカデミー推進計画進行管理表（平成26年度実績）

政策・施策 【基本構想上の位置付け】	大項目	コミュニティ・産業・文化	中項目	観光
-----------------------	-----	--------------	-----	----

アカデミー推進 計画における分野	4 観光
---------------------	------

分野別の目標	4 観光まちづくりのための人材育成と体制づくり
--------	-------------------------

1 現状と課題

- ① 来訪者に対し、区民が本区の魅力をきちんと伝えることができるようにするため、人材の育成や学びの機会づくりが求められています。
- ② 地域で活動する団体・人材の発掘を進めるとともに、区民、商店街、教育機関など区内のさまざまな主体が連携する体制を整えることや、個々の特徴を活かした活躍の場づくりが求められています。
- ③ 区民や事業者、地域活動団体などの観光振興に対する意識を醸成する中で、ホスピタリティを高めることが求められています。
- ④ 区、観光協会、地域活動団体などさまざまな団体が、それぞれ主体的に活動することに加え、組織や地域の枠を超えて協力・連携しながら取り組んでいくことが求められています。

2 基本的な方向・事業実績

	取組状況結果資料ページ
(1) 文の京の魅力を伝える人材等の育成	30
(2) 観光まちづくりに携わる団体・人材の発掘と活用	30
(3) 文の京全体としてのホスピタリティの醸成	30
(4) さまざまな主体が連携して取り組む体制づくり	30

3 評価対象事業

事業名	事業の概要
観光ガイド事業の充実	区民を中心に観光ガイドを募集し、ガイド技術を十分に育成した後に、来訪者の依頼に応じて、区内観光スポット等を案内する事業を実施します。
文の京の観光促進タウンガイドミーティング	観光の専門家である学識経験者や、旅行者、観光関係団体等の職員等による会議体を設置し、区内の観光資源の活用と魅力発信、おもてなしの心の醸成と環境整備、観光を通じた地域や産業の活性化の推進、効果的な観光施策のための各主体の連携手法等について議論します。

4 分野別評価

参考：24年度評価

- ・ オフィスエリアにおいて在勤者を地域の飲食店に取り込む等、飲食産業と連携した取り組み（フードツーリズム等による食の魅力発信等）をさらに充実されたい。
- ・ パンフレット等の配布場所・方法を工夫し、滞在時間の短い訪区者でも手軽に観光情報が入手できるよう検討する必要がある。
- ・ 観光ガイドの募集が隔年で実施されるため、ガイドの募集のない年度には、PRが停止してしまっている。人員確保の面で、ガイド募集を行わない年であっても事業全体のスケジュールが把握できるようにするなど、ガイド志願者や候補者を多く惹きつけ、取り込めるような案内、PRを研究されたい。
- ・ 区に関する副読本はあるものの、その他に、区内庭園が作成しているような小学生向けの観光ガイドブックを作成するなど、自区の観光資源や文化的な側面に対する理解と「愛区心」を育むような教育を行うことを検討されたい。

参考：平成25年度評価

- ・ 伝統的な祭りや商店街のイベント等において、若い世代が共に気軽にできる企画を検討されたい。
- ・ 事業によって、取り組みに濃淡があり、成果が多い事業がある一方、未着手の事業への懸念がある。
- ・ 観光によって文京区の街の知名度や好感度を向上させて行くことで、シティセールスにもつながる取組みの充実を検討されたい。
- ・ さらなる事業の推進にあたり、国や都の補助金も積極的に活用するべきである。人員については、必要な体制を整えることで、様々な課題を解決できるのではないか。

平成26年度評価

- ・ 観光振興の関係者と有機的な関係を構築しようとする新たな取組は評価できる。
- ・ 観光ガイド事業が継続されていることも評価できる。
- ・ 区内の小中学校等における“自区教育”ともいえる、自分たちのまちの魅力と価値を知る教育への取り組みが今後の課題といえる。直接観光に関わる方のみで無く、地域全体のホスピタリティが観光客の満足度の向上には重要である。
- ・ まちあるきによる観光以外にも、ゆかりの文人や特定の観光資源についてガイドができる方など、人材育成は貴重である。今後も継続的な育成に努められたい。

平成27年度 アカデミー推進計画進行管理表（平成26年度実績）

政策・施策 【基本構想上の位置付け】	大項目	コミュニティ・産業・文化	中項目	交流
アカデミー推進 計画における分野	5	国際交流		
分野別の目標	1	国際理解を進める機会づくり		
1 現状と課題				
<p>① 国際理解に関する各種の講座を、対象とする区民（児童・生徒・学生・社会人等）、テーマ、目標を明確にし、効果的に実施していくことが求められています。</p> <p>② 区内の名所・旧跡など歴史・文化資源をはじめ、本区の魅力を外国人に伝えていくことが求められています。</p> <p>③ 区内の大学の人材や施設を活用しながら、国際理解に関する講座を実施するなど、大学、事業者、国際交流団体等と協働していくことが求められています。</p>				
2 基本的な方向・取組状況				取組状況結果資料ページ
(1) 国際理解の推進				31
(2) 多様な文化を学べる機会の充実				31
3 評価対象事業				
事業名	事業の概要			
①国際理解推進事業	区内の大学等で多くの留学生や外国人研究者が学んでいる特性を踏まえ、大学、事業者、国際交流団体等と連絡し、様々なテーマによる国際理解を進める講座を開催します。			
4 分野別評価				
<p>参考：24年度評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際理解を深めるための講座を実施されているが、年数回では開催数が少ない。参加者のアンケート等からニーズを把握した上で、よりバラエティに富む内容となるよう工夫されたい。 毎日開放されている観光窓口（観光インフォメーション窓口等）を活用し、国際交流に関する報告や各大学や団体の主催する講座等の情報発信を、日々の窓口業務の中で行っていただけるとよい。 区内大学で既に実施されている国際理解を推進するための講座を活用するのもよいのではないかと。区内大学等の国際理解講座のうち、文京区として方針に賛同するもの、趣旨を同じくするものの推奨するライセンス（文京区国際認定講座等）の創設などを通じて、知識及び知る機会の情報発信を積極的に行い、区民の国際理解講座受講の全体の機会を拡大させる必要がある。 国際理解推進講座や各種交流事業において、区民参加者の意見や視点の事業へのフィードバックの仕組みを整えるうえで、参加者アンケート等を通じた区民ニーズの把握に、より一層努められたい。 				
<p>参考：平成25年度評価</p> <ul style="list-style-type: none"> アカデミー推進計画における国際交流を推進するため、適切な人員の確保を図られたい。 オリンピック・パラリンピックに向けて、訪日した外国人へ日本文化を発信する取組みの充実を検討されたい。 区民を中心にして国際理解を進める機会の拡充ができる事業を検討されたい。 				
<p>平成26年度評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成25年度評価に引き続き、計画の実施のために適切な人員等の確保を図られたい。また、区民との協力体制を一層進めていくよう検討されたい。 トルココーヒーを題材とした国際理解推進のための講座が好評であった事は評価できる。カイザースラウテルン市との姉妹都市交流を踏まえたドイツに関する国際理解向上の取組も拡充に努められたい。 				

平成27年度 アカデミー推進計画進行管理表（平成26年度実績）

政策・施策 【基本構想上の位置付け】	大項目	コミュニティ・産業・文化	中項目	交流
-----------------------	-----	--------------	-----	----

アカデミー推進 計画における分野	5 国際交流
分野別の目標	2 国際交流を進める機会づくり

1 現状と課題

- ① 国際交流活動に携わりたいと考えているものの、方法がわからないという区民や外国人のために、そのきっかけとなる情報や機会を提供していくことが求められています。
- ② 国際交流に関する事業を区や区民等が主体的に継続して行うため、国際交流団体、区民、大学、事業者等の連携の仕組みをつくることが求められています。
- ③ 国際交流に関心を持つ区民を、国際交流を担う人材として育成・支援することが求められています。
- ④ 区民と外国人とが共に気軽に利用でき、集うことができるスペースを設けることが求められています。
- ⑤ カイザースラウテルン市や海外都市との交流を一層推進するため、区民に交流の内容を広く知らせ、参加を図ることが求められています。

2 基本的な方向・取組状況

基本的な方向・取組状況	取組状況結果資料ページ
(1) 交流の機会の拡充	31
(2) 交流を支える人材の育成及び支援	32
(3) 交流拠点の充実	32
(4) 姉妹都市等、海外都市との交流の活性化	32～33

3 評価対象事業

事業名	事業の概要
①海外都市との交流事業	姉妹都市カイザースラウテルン市とホームステイ生徒交換事業を中心とした各種交流事業の外に、他の海外都市とも機会をとらえて訪問団の派遣や受入を行い、交流を進めていきます。
②外国人参加型交流事業	外国人や留学生が、地域行事やボランティアなど、区内で実施されるさまざまな事業に参加できる機会を提供し、区民・外国人の交流と相互理解を進める事業を行います。

4 分野別評価

参考：24年度評価

- ・カイザースラウテルン市とのホームステイ事業については、一回のホームステイのみに完結するのではなく、ホームステイに参加した生徒のその後の様子がわかるような仕組みを整えることによって、将来の国際交流がより一層活気あるものとなるではないか。具体的には、区のホームページに生徒のエッセイを掲載し、ホームステイに関する振り返りができるようにする／ホームステイを実施した生徒たちの同窓会を設ける等。
- ・2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、観光分野と国際分野のさらなる連携（観光分野・国際交流分野連携プログラム）が必要ではないか。具体的には、区外からの来訪者や応援団の受け入れ（おもてなし）態勢づくり、練習会場の提供、案内やお世話をするボランティアの確保・充実等。

参考：平成25年度評価

- ・オリンピック・パラリンピックを踏まえ、市民同士の交流が重要であるため、区民が海外に出向いて直接交流を図れる仕組みの拡充を検討されたい。
- ・ヨーロッパ方面との交流は、移動時間等の負担が大きいため、従来の欧米との交流のほかにも、アジア方面との交流に力を入れていく転換期に来ていると考える。区内在住の外国人等、身近な人材を活用した海外都市との交流促進を検討されたい。

平成26年度評価

- ・トルコのベイオウル区と友好交流に関する覚書が締結されたことを評価する。カイザースラウテルン市やベイオウル区等の海外都市との交流事業については、周年事業等の機会を捉えて幅広く進めていく事が大切である。
- ・国際フェスタについては、区民と外国人の交流や相互理解の推進につながる事業として有効であるため、様々な方法による拡充を検討されたい。また、交流のための場所づくりについても研究されたい。

平成27年度 アカデミー推進計画進行管理表（平成26年度実績）

政策・施策 【基本構想上の位置付け】	大項目	コミュニティ・産業・文化	中項目	交流
アカデミー推進 計画における分野	5 国際交流			
分野別の目標	3 外国人が快適に暮らせる環境づくり			
1 現状と課題				
<p>① 外国人が大きな困難を感じずに日常生活を送ることができるよう、生活関連情報や災害等の非常時における多言語対応を進めることが求められています。</p> <p>② 外国人への日本語習得支援を充実させることが求められています。</p> <p>③ 外国人が、地域において区民との交流や各種の活動を行うことができる機会をつくることが求められています。</p>				
2 基本的な方向・取組状況				取組状況結果資料ページ
(1) 外国人の暮らしの支援				33
(2) 地域活動への参加促進				33
3 評価対象事業				
事業名	事業の概要			
①外国人参加型交流事業	外国人や留学生が、地域行事やボランティアなど、区内で実施されるさまざまな事業に参加できる機会を提供し、区民・外国人の交流と相互理解を進める事業を行います。			
4 分野別評価				
<p>参考：24年度評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 外国人の生活支援は幅広く、多くの切り口があるため、現在は各部署がそれぞれ外国人向けの事業を展開している。具体的には、防災課で実施されている、四か国語防災マップ作成など、個々の取り組みについては評価できる。 外国人に対する生活支援に関して、簡易な外国人相談については現在広報課で実施されているが、より専門的な部署を設置することで、区内に生活するうえでの実際の区民ニーズに合った幅広い生活支援が実現できるのではないかと。 情報発信について、インターネット上には、区内外の様々な団体や国際交流機関のウェブサイトがあるので、それらのリンクを集め、情報を一元化して見つけやすくするなどし、活用の促進を図ることが望ましい。区の国際理解に関する情報のワンストップを実現できるとよい。 				
<p>参考：平成25年度評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 文京区は、留学生の割合が高いのが特徴であり、中でもアジアからの留学生が大多数でもあることも踏まえ、オリンピック・パラリンピックに向けて、留学生とともに新たな取組みを実行できるよう検討されたい。 留学生の生活支援に関し、区が持つ資源を活用した住宅支援が可能か研究されたい。 				
<p>平成26年度評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 2020年東京オリンピック・パラリンピックを契機に海外から多くの方が滞在・来訪されるので、現在推進されている統一案内標識をはじめ様々な支援により、少しでも文京区に好感を持ってもらえるきっかけづくりを研究されたい。 アカデミー推進課だけでなく、行政全体で取り組んでいる外国人支援施策を踏まえて情報を整理し、計画を適切に評価することも必要である。 				